

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書

川崎山遺跡 y 地点

西山遺跡 e 地点

神明前遺跡 c 地点

平沢遺跡 g 地点

北裏畑遺跡 j 地点

門原遺跡 a 地点

東向遺跡 b 地点

門原遺跡 b 地点

麦丸宮前上遺跡 g 地点

追分遺跡 b 地点

令和5年度

八千代市教育委員会

千葉県八千代市
市内遺跡発掘調査報告書 令和5年度

令和5年11月2日発行

発行 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課

千葉県八千代市大和田138-2

TEL 047-481-0304

印刷 株式会社山下印刷

例 言

- 1 本書は、八千代市教育委員会が令和 4 年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は、令和 5 年度事業として行った。
- 2 調査は千葉県教育委員会の指導を受け、八千代市教育委員会が直営で実施した。
- 3 令和 4 年度における本事業の調査体制は以下の通りである。

調査主体者	小林 伸夫	八千代市教育委員会	教育長	
	山本 博章	八千代市教育委員会	教育次長	
事務担当	宮澤 久史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主幹（文化財担当）	
	向後 喜紀	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主査	
調査担当	宮澤 久史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主幹（文化財担当）	
	宮下 聡史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主任文化財主事	
	森 竜哉	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主任主事	
- 4 整理作業は、調査時の基礎整理、資料の収集・整理を岩崎千代子、宇都洋子、杵島由希が、出土土器等の拓本・実測・遺構、遺物のトレースを柴田清加、長谷川恵理子が、遺物の写真、本文の執筆・編集を森・向後が行った。
- 5 発掘調査により作成した遺構平面図・写真類・出土遺物等は全て八千代市教育委員会が保管している。

目 次

I 本書掲載遺跡の立地と環境	1
II 発掘調査成果	4
① 川崎山遺跡 y 地点	4
② 西山遺跡 e 地点	5
③ 神明前遺跡 c 地点	6
④ 平沢遺跡 g 地点	9
⑤ 北裏畑遺跡 j 地点	11
⑥ 門原遺跡 a 地点	13
⑧ 門原遺跡 b 地点	13
⑦ 東向遺跡 b 地点	14
⑨ 麦丸宮前上遺跡 g 地点	16
⑩ 追分遺跡 b 地点	18

挿 図 目 次

図 1	本書掲載遺跡	3
図 2	川崎山遺跡 y 地点	4
図 3	西山遺跡 e 地点 (1)	5
図 4	西山遺跡 e 地点 (2)	6
図 5	神明前遺跡 c 地点 (1)	7
図 6	神明前遺跡 c 地点 (2)	8
図 7	平沢遺跡 g 地点 (1)	9
図 8	平沢遺跡 g 地点 (2)	10
図 9	北裏畑遺跡 j 地点 (1)	11
図 10	北裏畑遺跡 j 地点 (2)	12
図 11	門原遺跡 a・b 地点 (1)	13
図 12	門原遺跡 a・b 地点 (2)	14
図 13	東向遺跡 b 地点	15
図 14	麦丸宮前上遺跡 g 地点 (1)	16
図 15	麦丸宮前上遺跡 g 地点 (2)	17
図 16	追分遺跡 b 地点	18

遺物観察表目次

表 1	西山遺跡 e 地点・神明前遺跡 c 地点・平沢遺跡 g 地点	19
表 2	北裏畑遺跡 j 地点・麦丸宮前上遺跡 g 地点	20

図 版 目 次

図版 1	川崎山遺跡 y 地点・西山遺跡 e 地点
図版 2	神明前遺跡 c 地点
図版 3	平沢遺跡 g 地点
図版 4	北裏畑遺跡 j 地点
図版 5	門原遺跡 a.b 地点・東向遺跡 b 地点・
図版 6	麦丸宮前上遺跡 g 地点・追分遺跡 b 地点

I 本書掲載遺跡の立地と環境

八千代市は都心から東へ30km、千葉市の市街地中心部から北へ約13km、千葉県の北西部地域で印旛沼西岸に位置する。市域は房総半島の内陸部にあり、地形は平坦な下総台地とそれを樹枝状に開析する河川や谷津で構成されている。

市域の下総台地は、三つの地形面で構成されている。下総上位面は大地全体に広く分布し、最も上位に位置する。下総下位面は神崎川の兩岸や新川の西岸、旧印旛沼の南岸、神崎川の南岸、桑納川の南岸、新川の西岸、高津川の南岸、勝田川の兩岸などにみられ、複数の段丘面で構成される下位の段丘面群である。

市域の中央を南北に貫く新川（印旛放水路）は、上流域では勝田川、下流域ではかつて平戸川と呼ばれており、本来、印旛沼水系に属していた。千葉市の長沼から大日一帯を水源とし、南から北に流下し、その左岸から高津川（八千代1号幹線）・桑納川・神崎川が合流し、平戸で流れを東に変え、印旛沼に流れ込む。戦後、大和田排水機場の完成と江戸時代から進められていた新川と花見川の開通により、現在は印旛沼が増水した時に湖水を東京湾に流す放水路となっている。

市内を流れる河川は、市域の大地を大きく大和田・睦・阿蘇の3つの区域に区分している。

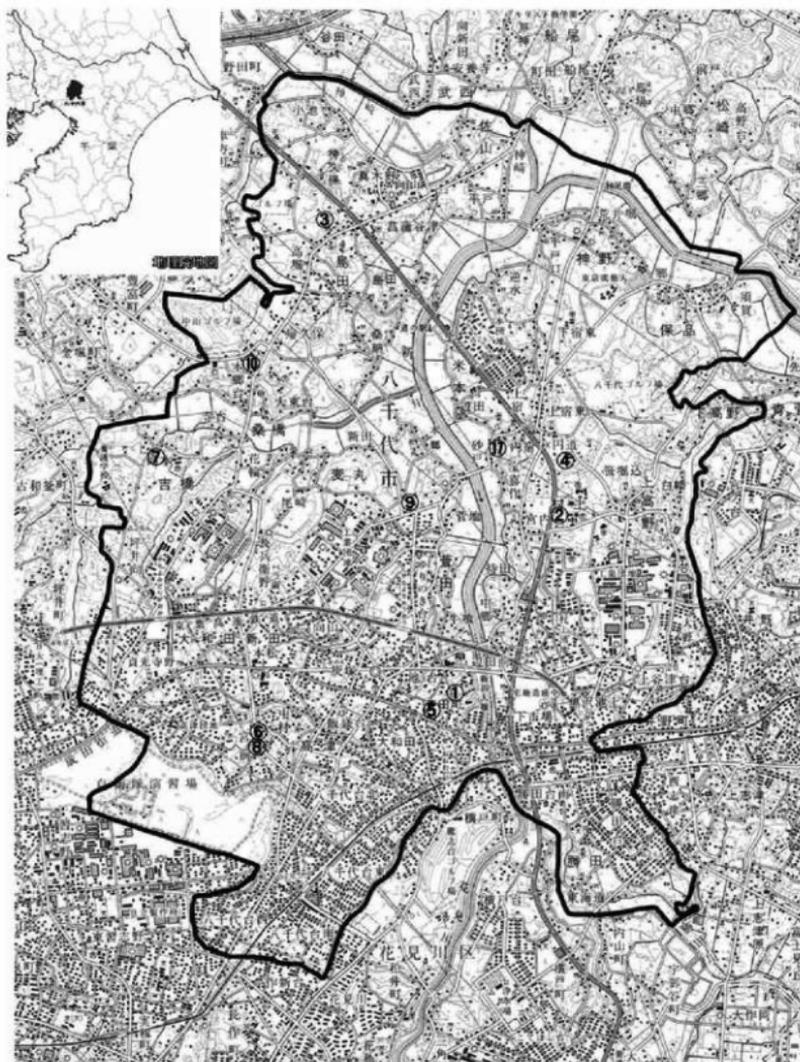
以下、本書掲載の遺跡を説明する。

- ① 川崎山遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地上に位置する。これまでに24地点の確認調査とそれらに継続した本調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代前・中期の堅穴建物跡を中心として、縄文時代堅穴建物跡・陥穴等が確認されている。平安時代堅穴建物跡が散在する。
- ② 西山遺跡は市域中央部、新川を西に臨む台地上に位置する。これまでに4地点の確認調査とそれに継続した本調査1地点が行われ、包蔵地南西側で、古墳時代前期と平安時代の堅穴建物跡が確認されている。
- ③ 神明前遺跡は市域北部、神崎川を北に臨む谷津の最奥部と新川を東に臨む谷津の最奥部の2か所に挟まれた台地上平坦部に位置する。これまでに2地点の確認調査とそれに継続した本調査1地点が行われ、包蔵地中央やや北側において、古墳時代終末期の堅穴建物跡1棟が確認されている。
- ④ 平沢遺跡は市域東部、高野川の支流を北に臨む台地平坦面から緩斜面に位置する。これまでに7地点の確認調査とそれに継続した本調査が行われ、弥生時代後期の堅穴建物跡を中心として、縄文時代土坑、土器片が散在する。
- ⑤ 北裏畑遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地平坦面上に位置する。これまでに9地点の確認調査とb地点、d地点にかかる一部本調査が行われ、縄文時代陥穴2基や石鏃のほか、近世～近代の炭窯、溝跡や陶磁器、銭貨、瓦等が確認されている。
- ⑥⑧ 門原遺跡は市域南部、高津川を北に臨む台地平坦面上に位置する。今回の調査が初めてであり、奈良平安時代の土師器等散布地としての成果が期待される。
- ⑦ 東向遺跡は市域西部、桑納川を北に臨む台地平坦面から緩斜面上に位置する。これまでに市教育委員会による1地点の確認調査と（公財）千葉県教育振興財団文化財センターによる西八千代北部土地区画整理事業関連の21地点の確認・本調査が行われ、旧石器時代石器集中地点20カ所、縄文時代陥穴・土坑、土器片・石器類、平安時代堅穴建物跡2棟、近世塚・野馬土手・シシ穴等が確認されている。

- ⑨ 麦丸宮前上遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地平坦面上に位置する。これまでに7地点の確認調査とそれに継続した本調査3地点が行われ、縄文時代土坑、弥生時代後期・古墳時代前・後期・奈良平安時代（8世紀後半～9世紀初頭）の竪穴建物跡が確認されている。
- ⑩ 追分遺跡は市域中央部、桑納川を南に臨む台地上平坦面に位置する。これまでに1地点の確認調査が行われ、縄文時代中～後期の遺物包含層、奈良平安時代方形周溝遺構1基、平安時代竪穴建物跡6棟が確認されている。

[参考文献]

- 川崎山遺跡** 2008 八千代市教育委員会「千葉県八千代市逆水遺跡他7遺跡－不特定遺跡発掘調査報告書v－」
2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成27年度」
2020 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書令和元年度」
2021 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書令和2年度」
2023 有限会社原史文化研究所「千葉県八千代市川崎山遺跡－y地点発掘調査報告書－」
- 西山遺跡** 2002 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成13年度」村上宮内b
2011 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市西山遺跡－埋蔵文化財発掘調査報告書－」
- 神明前遺跡** 2019 八千代市教育委員会「千葉県八千代市神明前遺跡b地点－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」
- 平沢遺跡** 2013 八千代市教育委員会「千葉県八千代市平沢遺跡a地点・殿台遺跡a地点－都市計画道路3・4・9号線建設地内埋蔵文化財発掘調査報告書－」
2017 八千代市教育委員会「千葉県八千代市平沢遺跡e地点－福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」
2023 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書令和4年度」
- 北裏畑遺跡** 2008 八千代市教育委員会「千葉県八千代市逆水遺跡他7遺跡－不特定遺跡発掘調査報告書v－」
2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成27年度」
2019 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成30年度」
2021 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書令和2年度」
- 門原遺跡** 調査例なし
- 東向遺跡** 2007 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成18年度」
2014 公益財団法人千葉県教育振興財団「西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書4」－八千代市東向遺跡・坪井向遺跡・川向遺跡・庚申山塚群・八王子台遺跡－
- 麦丸宮前上遺跡** 2010 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成21年度」
2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成22年度」
2018 株式会社地域文化財研究所「千葉県八千代市麦丸宮前上遺跡e地点発掘調査報告書」－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査
2020 株式会社地域文化財研究所「千葉県八千代市麦丸宮前上遺跡f地点発掘調査報告書」－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査
- 追分遺跡** 1994 八千代市教育委員会「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告平成5年度」



令和4年度市内遺跡調査地点位置図

- ①川崎山遺跡 y 地点 ②西山遺跡 e 地点 ③神明前遺跡 c 地点 ④平沢遺跡 g 地点 ⑤北裏畑遺跡 j 地点
 ⑥門原遺跡 a 地点 ⑦東向遺跡 b 地点 ⑧門原遺跡 b 地点 ⑨妻丸宮前上遺跡 g 地点 ⑩追分遺跡 b 地点

図1 本書掲載遺跡

II 発掘調査成果

① 川崎山遺跡 y 地点 (図2 図版1)

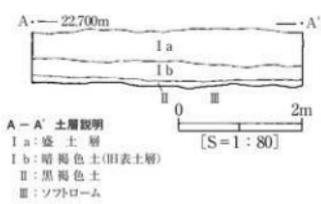
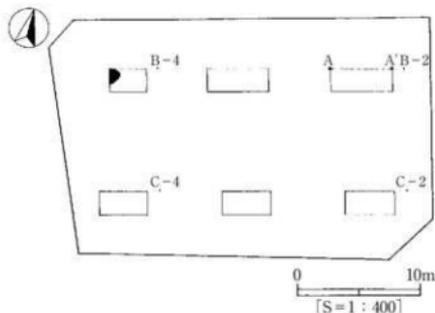
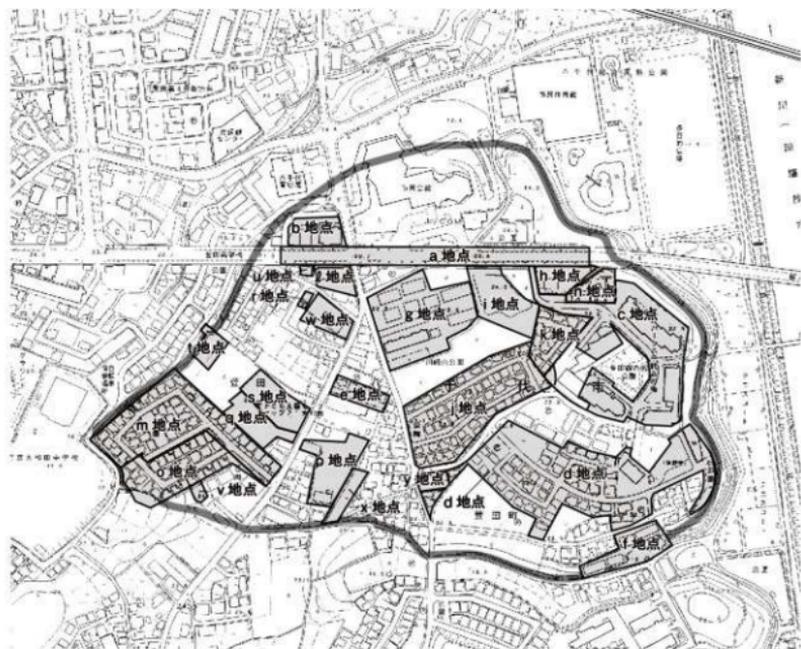


図2 川崎山遺跡 y 地点

○調査概要

【所在地】 八千代市萱田町 745-6 【調査原因】 建売住宅

【調査期間】 令和4年4月15日～令和4年4月22日 【調査面積】 上層 50㎡ / 564.43㎡

【調査種別】 確認調査 【遺構】 縄文時代陥穴1基 【遺物】 なし

○調査所見

遺構は縄文時代陥穴1基を確認した。なお、遺構は令和4年7月に本調査が実施され、令和5年2月に報告書として刊行された。今回の検出地点は、本遺跡エリア内では台地縁辺部に位置する。これまでの調査において、台地縁辺部に占地する例と台地中央に占地する例が見られる。結果として、狩猟の場としての土地利用に1例を加えた。

② 西山遺跡 e 地点 (図 3.4 図版 1)

○調査概要

【所在地】 八千代市村上 758-3 ほか 【調査原因】 店舗

【調査期間】 令和4年5月10日～令和4年5月25日 【調査面積】 上層 94㎡ / 1,150㎡

【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし 【遺物】 中近世土器・陶器

○調査所見

時代の下った土器類が出土したのみで、遺構は確認できなかった。遺構の主体は、西側の村上宮内遺跡を挟んだ南北方向の谷津を見下ろす台地縁辺部で a 地点はその一部と想定されよう。また村上宮内遺跡でも、b 地点において同一時期の遺構が確認されていることから、谷頭部分を共有した集落跡として考慮される。

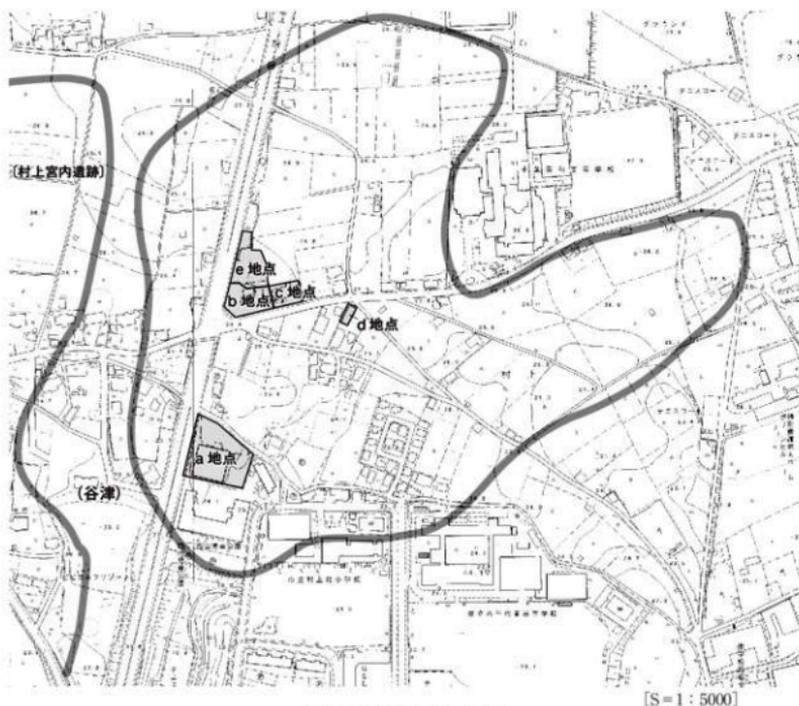


図 3 西山遺跡 e 地点 (1)

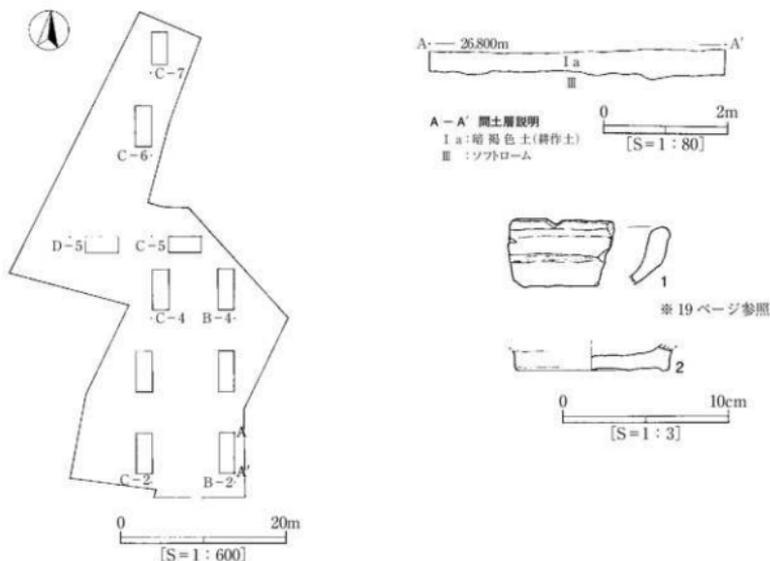


図4 西山遺跡e地点(2)

③ 神明前遺跡c地点(図5.6 図版2)

○調査概要

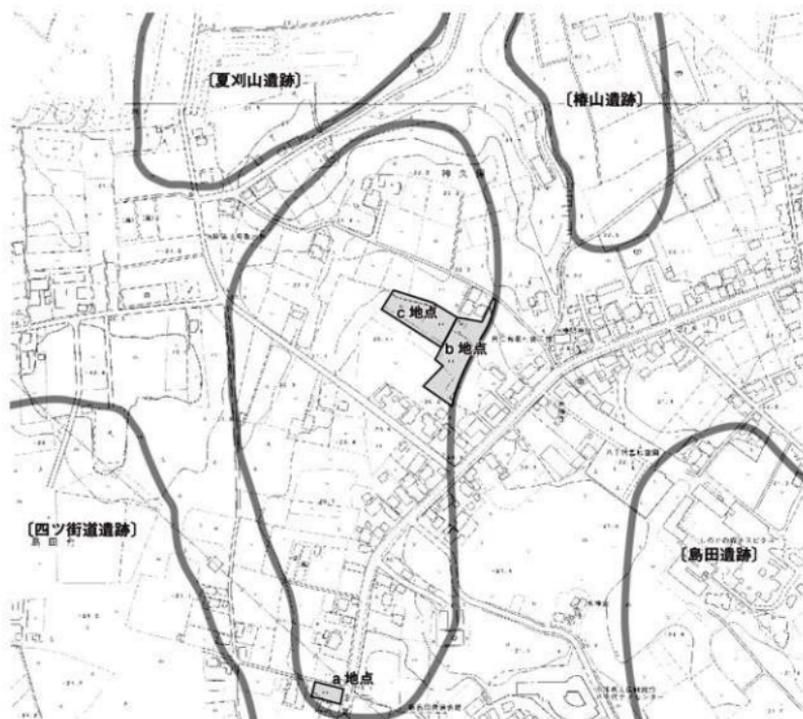
〔所在地〕八千代市島田台字神明前 1055-2 〔調査原因〕宅地造成

〔調査期間〕令和4年5月16日～令和4年5月30日 〔調査面積〕上層170㎡/1.847㎡

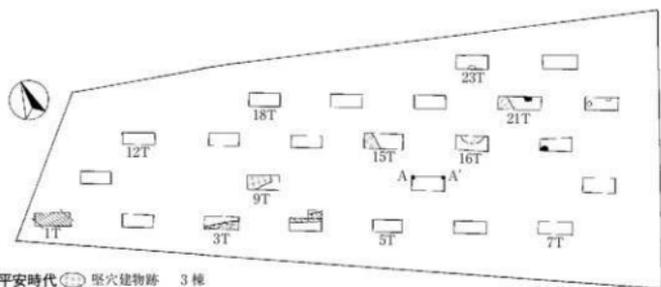
〔調査種別〕確認調査 〔遺構〕奈良・平安時代竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡2棟、土坑2基、井戸状遺構1基、溝1条 〔遺物〕内外赤彩土師器杯・常陸産須恵器杯・常総型甕・武蔵型甕・在地産須恵器甕等バラエティーが見られる。

○調査所見

今回はb地点北側隣接地の確認調査を行った。b地点では古墳時代終末期の遺物・竪穴建物跡1棟が確認されたが、今回の調査区においては、奈良時代(8世紀半ば)から平安時代(9世紀初頭～前半)の遺構・遺物が確認された。遺構の特異な例として、井戸状遺構があり、中核集落を中心に検出されることが多い。本遺跡は、北側の台地縁辺部に向けて集落本体が展開する可能性が高いと想定され、今後の調査事例の増加を待つこととした。



[S=1:5000]

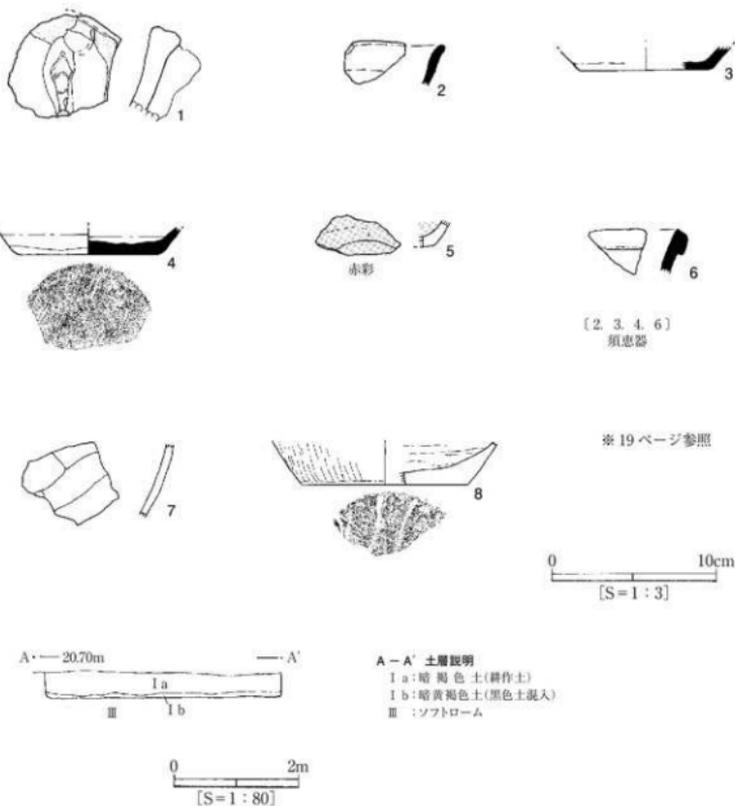


凡例

- | | | |
|--------|--------|----|
| 奈良平安時代 | 堅穴建物跡 | 3棟 |
| | 井戸状遺構 | 1基 |
| | 掘立柱建物跡 | 2棟 |
| | 土坑 | 2基 |
| | 溝 | 1条 |
| 時期不明 | 溝 | 1条 |

0 20m
[S=1:600]

図5 神明前遺跡c地点(1)



[2. 3. 4. 6]
須恵器

※ 19 ページ参照

A-A' 土層説明
 Ia: 暗褐色土(耕作土)
 Ib: 暗黄褐色土(黒色土混入)
 III: ソフトローム

図6 神明前遺跡c地点 (2)

④ 平沢遺跡 g地点 (図7.8 図版3)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市上高野 153-1, 251-1 〔調査原因〕 駐車場建設

〔調査期間〕 令和4年7月5日～令和4年7月14日 〔調査面積〕 上層 248㎡/2,900㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 弥生時代堅穴建物跡2棟 〔遺物〕 弥生土器

○調査所見

今回の調査において、弥生時代後期の堅穴建物跡2棟を確認した。これまでの6地点の確認調査・本調査結果から、遺跡の主体となる時期は弥生時代後期である。遺構の占地については、台地縁部やや内側の平坦面から東平坦部に展開している状況である。今後、都市計画道路東側部分で調査が予定されれば、集落規模が確定していくことと想定される。遺物は、南関東系・東関東系・在地系が混在している。後期中葉から後半に位置付けられる。

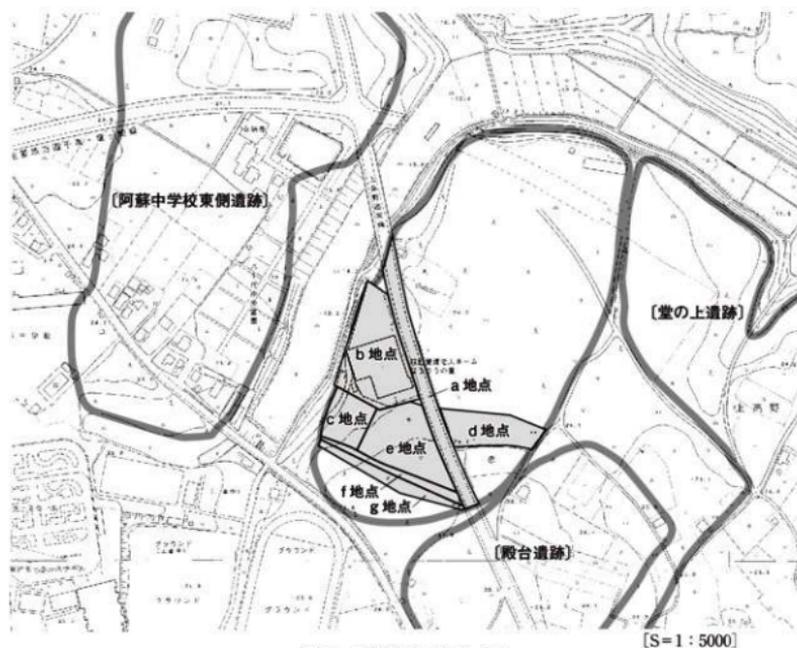


図7 平沢遺跡 g地点 (1)

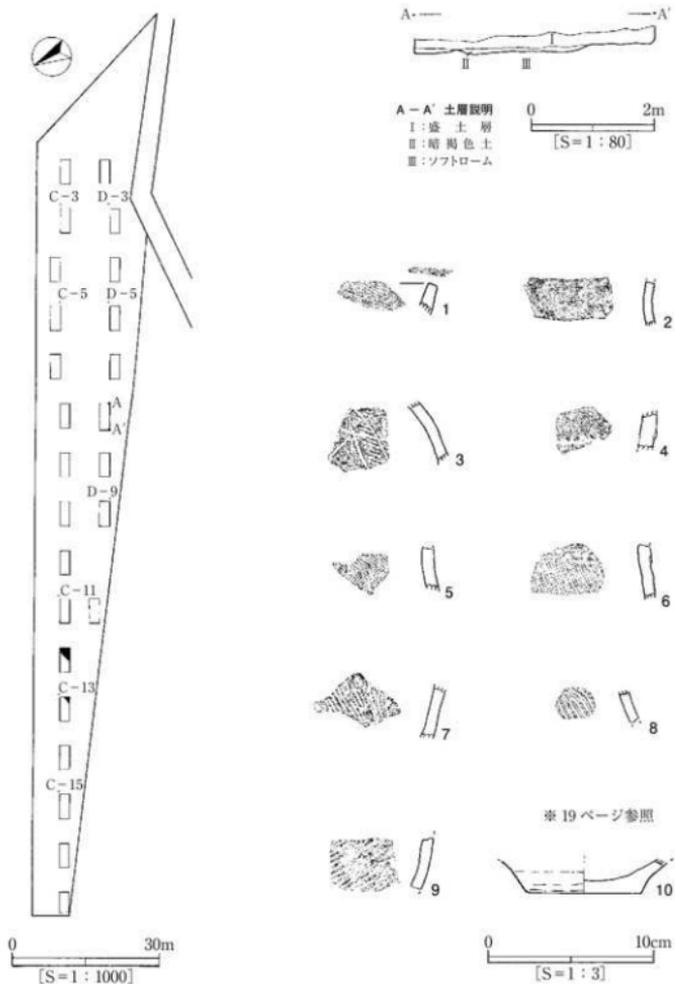


図8 平沢遺跡g地点(2)

⑤ 北裏畑遺跡 j 地点 (図 9.10 図版 4)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市萱田町字北裏 865-3 他 〔調査原因〕 宅地造成

〔調査期間〕 令和 4 年 8 月 22 日～令和 4 年 9 月 2 日 〔調査面積〕 上層 444㎡ / 4,792.89㎡

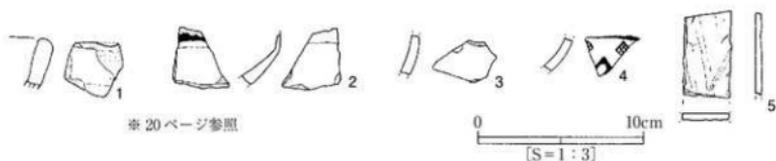
〔調査種別〕 確認・本調査 〔遺構〕 縄文時代土坑 1 基 〔遺物〕 近世土器・陶器・磁器等

○調査所見

確認した遺構は縄文時代土坑 1 基である。これまでに、b 地点、d 地点において陥穴が各 1 基ずつ確認されており、今回を含めて 3 基となる。d 地点においては石鏃 1 点も出土していることから、狩猟の場としての土地利用が想定される。出土遺物からは、近世・近代の生活雑器が確認されており、他地点での成果を含め、大和田宿に関わる後背地としての土地利用が考えられる。

01 土坑

位置：調査区北側の台地平坦面。確認面：Ⅲ層上面。長軸方位：N-80°-E の東西方向。規模・平面形：1.63m × 0.83m × 深さ 1.86m の楕円形。壁：底面から直立して立ち上がり、上方 0.6m 程度でやや開く。底面：ハードルーム層を 1.5m 程度掘り込む。平坦部分は狭い。覆土：6 層に分層。4 層以下は埋戻し層。遺物：なし。所見：覆土の状況から縄文時代の土坑と判断した。



※ 20 ページ参照

図 9 北裏畑遺跡 j 地点 (1)

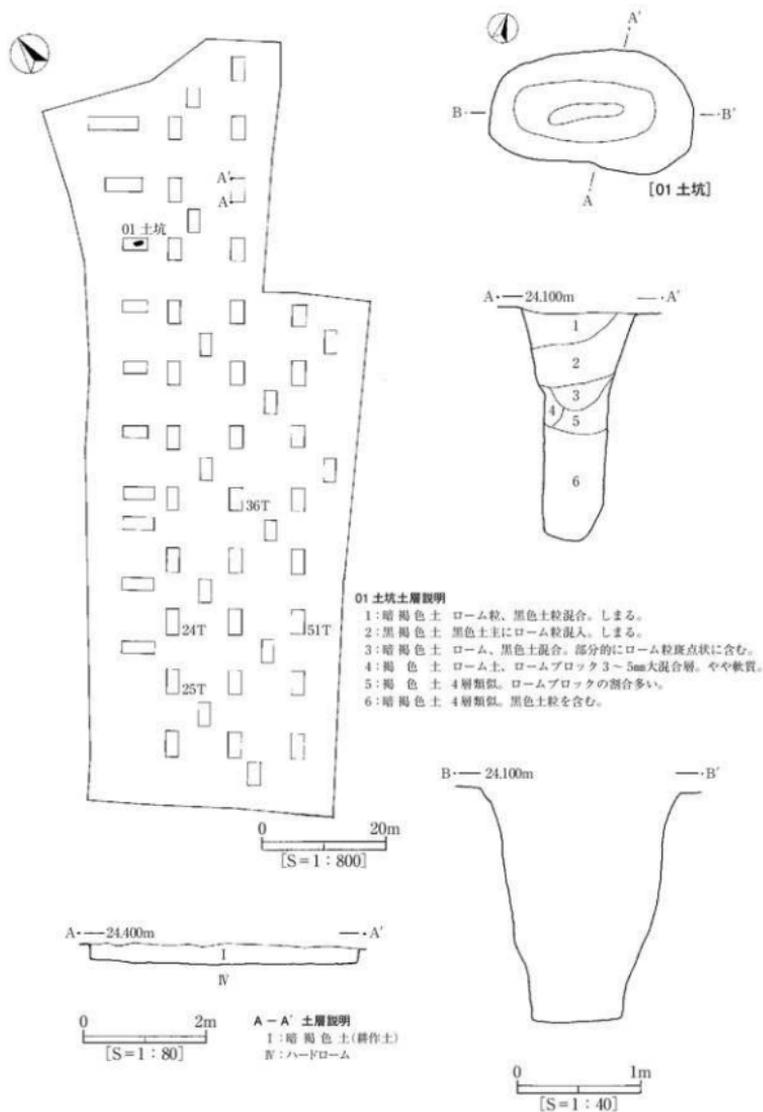


図 10 北裏畑遺跡 j 地点 (2)

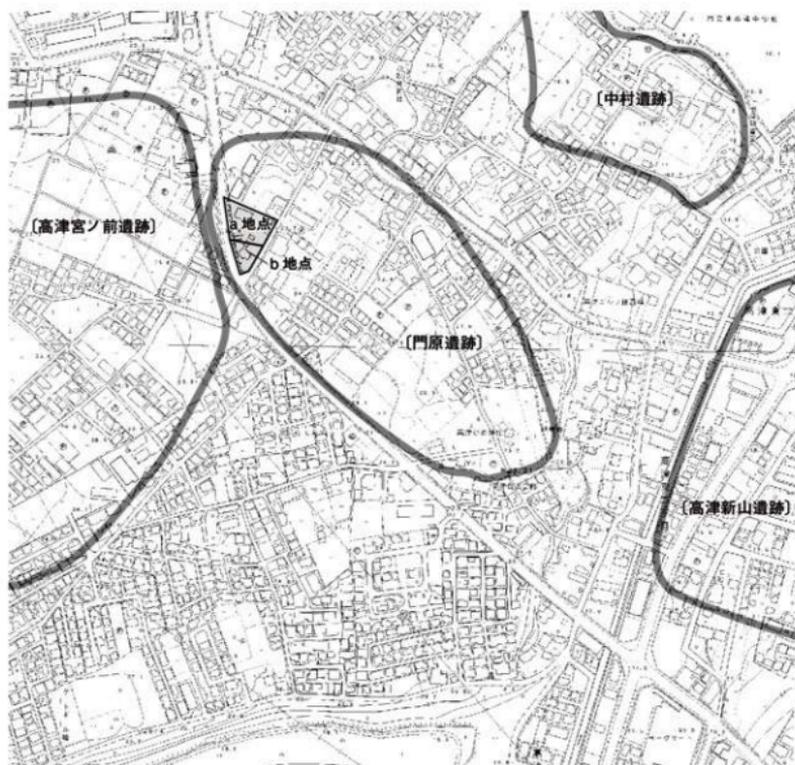


図 11 門原遺跡 a・b 地点 (1)

⑥ 門原遺跡 a 地点 (図 11.12 図版 5)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市高津字西 674-1 他 〔調査原因〕 個人住宅

〔調査期間〕 令和 4 年 9 月 20 日～令和 4 年 9 月 27 日 〔調査面積〕 上層 168㎡ /1,655.63㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

⑧ 門原遺跡 b 地点 (図 11.12 図版 5)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市高津字西 674-4 他 〔調査原因〕 グループホーム建設

〔調査期間〕 令和 4 年 11 月 22 日～令和 4 年 11 月 25 日 〔調査面積〕 上層 36㎡ /355.97㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔遺物〕 なし

○調査所見

a 地点、b 地点ともに、遺構、遺物は確認されなかった。奈良・平安時代の包蔵地とされているが、明

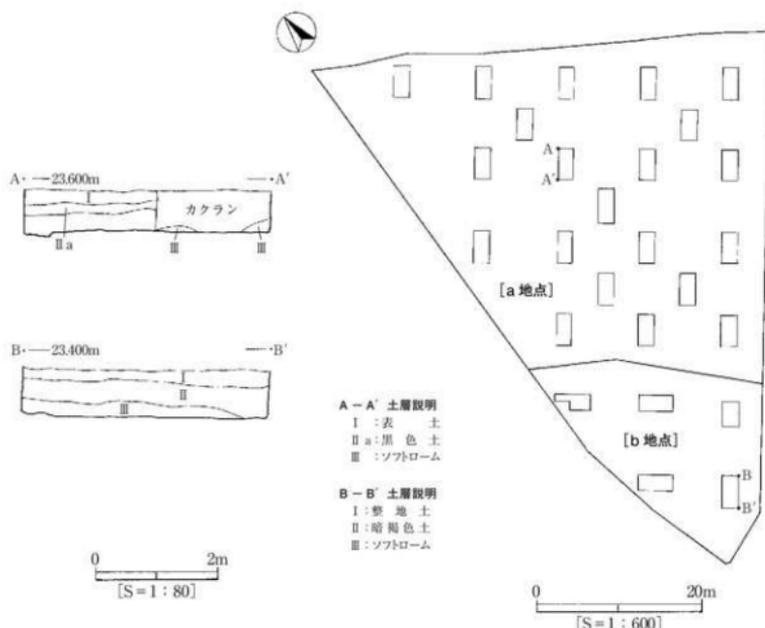


図12 門原遺跡 a・b 地点 (2)

確な土地利用の把握はできなかった。同一支台で西側隣接地の宮ノ前遺跡と北東側の中村遺跡ともに同様な傾向を示している。本遺跡の南東側の谷津を隔てた高津新山遺跡は、古墳時代後期～奈良・平安時代の集落跡として150棟あまりの堅穴建物跡が検出されているが、高津新山遺跡を支える後背地として、3遺跡が機能したのではないかと考えている。

⑦ 東向遺跡 b 地点 (図13 図版5)

○調査概要

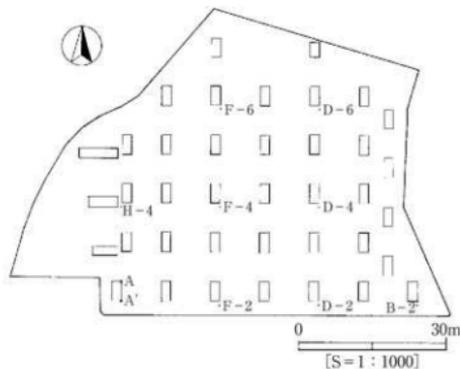
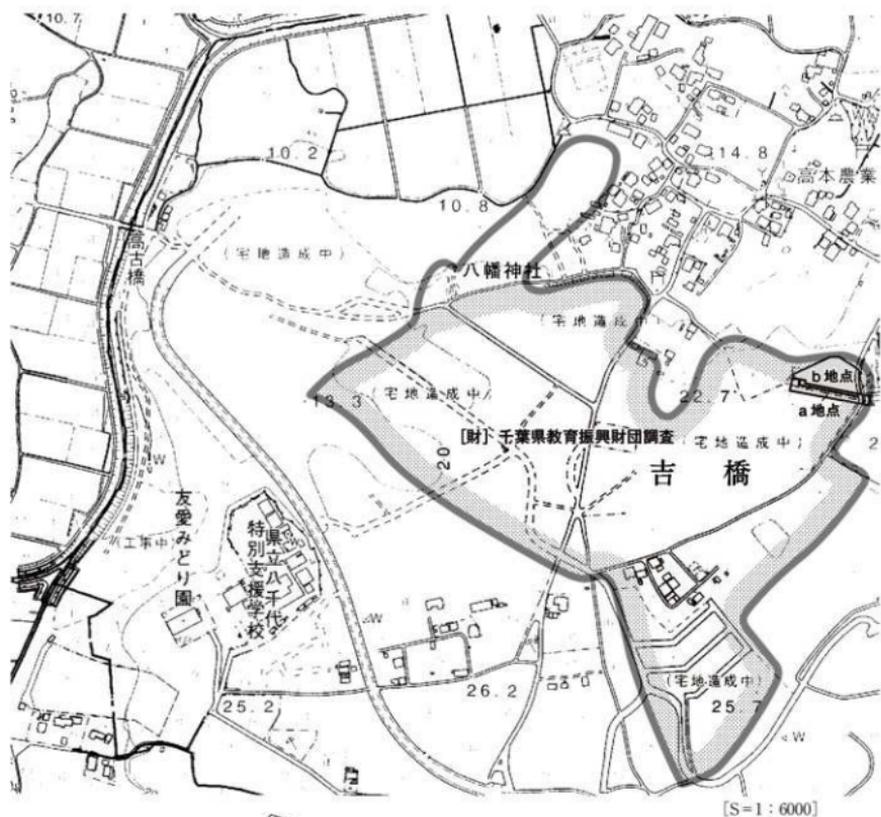
【所在地】 八千代市吉橋字東向2700-1, 6 【調査原因】 特別養護老人ホーム建設

【調査期間】 令和4年9月26日～令和4年10月3日 【調査面積】 上層 324㎡ /3,940㎡

【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし 【遺物】 なし

○調査所見

今回の調査において、遺構、遺物は確認されなかった。市教委が実施した a 地点、b 地点は本遺跡北東隅で、県立八千代西高等学校の西隣接地に位置する。前述したとおり、調査例は(公財)千葉県教育振興財団文化財センターによる部分が多い。153,978㎡の確認本調査において旧石器時代～縄文土器出現期の石器集中地点20カ所、縄文時代の陥穴6基・土坑9基・早期～後期土器片・石鏃・石斧・凹石、平安時代の堅穴建物跡2棟、近世の塚1・野馬土手堀8条・シシ穴1基等が検出された。本遺跡で未調査部分は、北西側の八幡神社を含む周辺のみである。遺跡エリアの土地利用については、ほぼ把握できたと想定されよう。



A-A'—26.800m



A-A' 土層説明
 I:暗褐色土(盛土)
 II:ハープロム

0 2m
 [S=1:80]

図13 東向遺跡b地点

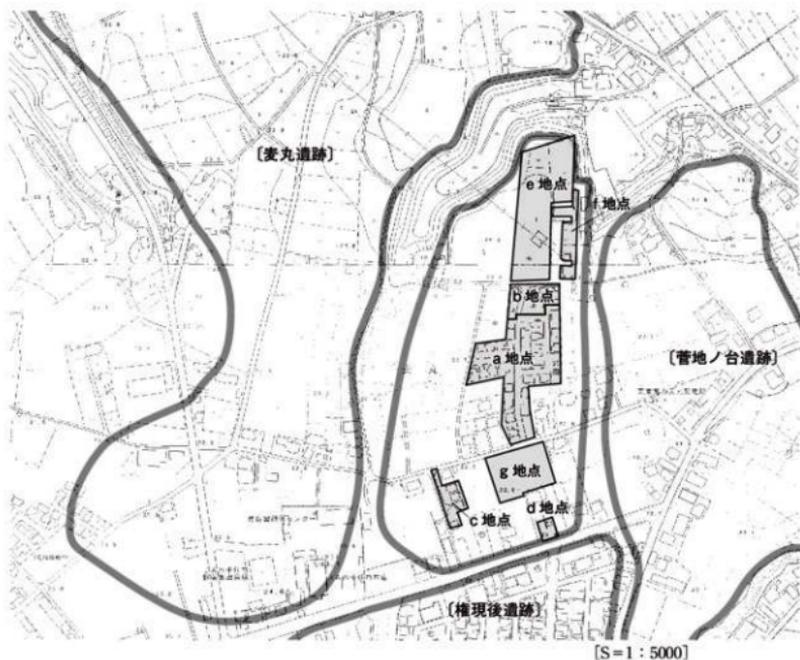


図14 斐丸宮前上遺跡g地点(1)

⑨ 斐丸宮前上遺跡g地点(図14.15 図版6)

○調査概要

【所在地】八千代市大和田新田字米本道南630-1, 632 【調査原因】宅地造成

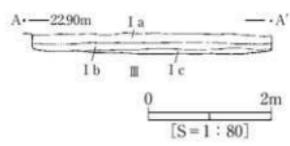
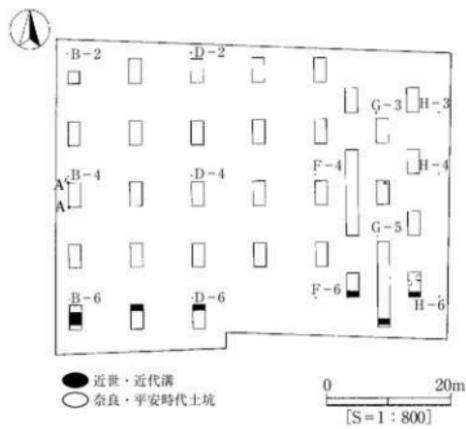
【調査期間】令和5年1月26日～令和5年2月6日 【調査面積】上層300㎡/2,998.33㎡

【調査種別】確認調査 【遺構】奈良・平安時代土坑3基, 近世・近代溝2条

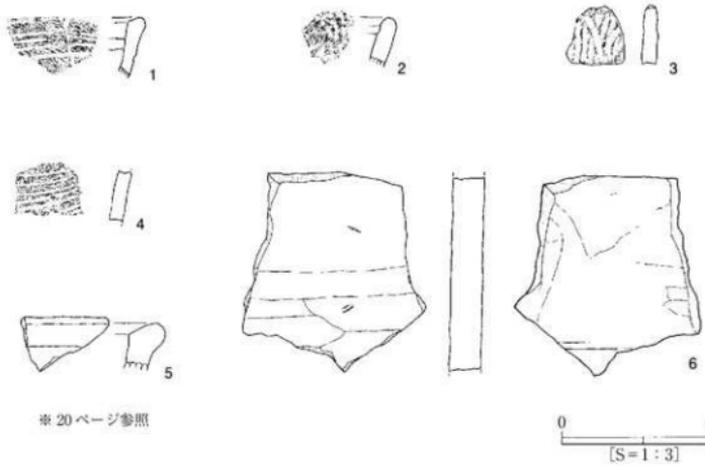
【遺物】縄文土器, 奈良・平安時代土師器

○調査所見

今回の調査において、奈良・平安時代の土坑が検出された。これまでの6地点の確認調査・本調査から、遺構は台地北側に展開し、南側に密度が薄くなる状況が判明した。時期は遺物から、縄文時代草創期～後期の各時期、弥生後期、古墳時代前期・後期、奈良・平安時代(8世紀中葉～9世紀初頭)に亘る。各時代とも小規模で自然村落の感がある。奈良・平安時代については、9世紀代全般に展開が見られず、移動の可能性が想定されよう。



A-A' 土層説明
 Ia: 暗褐色土 しまりなし。
 Ib: 暗褐色土 しまり強い。
 Ic: 暗黄褐色土 しまり弱い。
 III: ソフトローム



※ 20 ページ参照

図 15 麦丸宮前上遺跡 g 地点 (2)

⑩ 追分遺跡b地点 (図16 図版6)

○調査概要

【所在地】 八千代市烏田台字追分 736-1 【調査原因】 通信アンテナ設備撤去

【調査期間】 令和5年2月10日～令和5年2月14日 【調査面積】 上層3m²/29.22m²

【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし 【遺物】 なし

○調査所見

今回は小規模な確認調査でもあり、遺構、遺物は確認されなかった。a地点確認調査では、縄文時代中後期土器片、奈良・平安時代方形周溝遺構1基・平安時代堅穴建物跡6棟・須恵器長頸壺・土師器坏が出土した。東側近接地の秀明八千代中学校・高等学校建設時における発掘調査においても当該時期の遺構が確認されており、広域での土地利用が想定される。

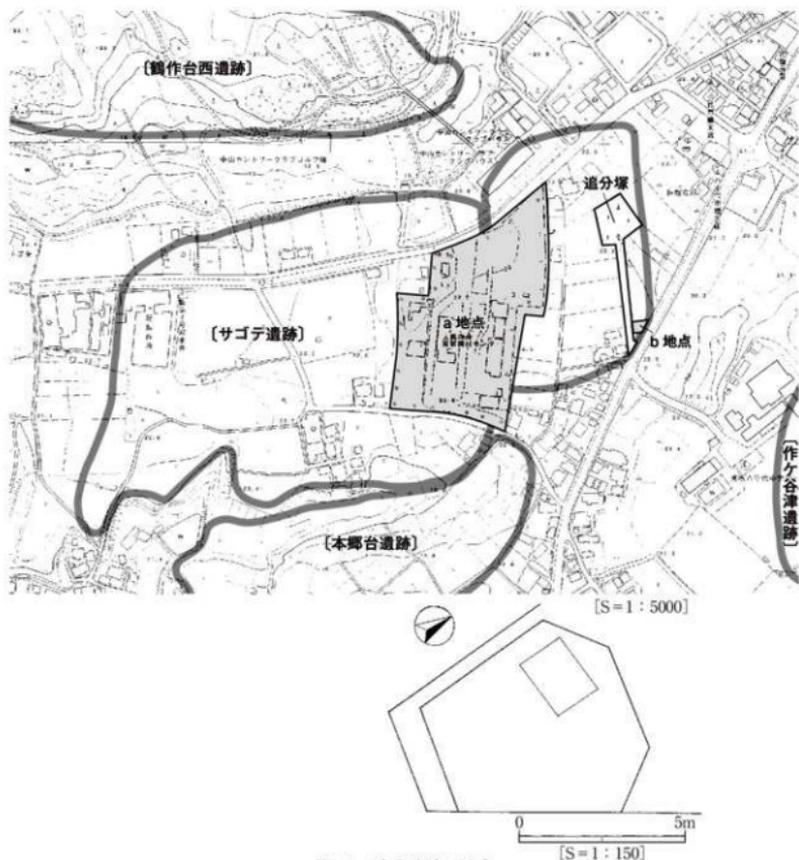


図16 追分遺跡b地点

西山遺跡 e 地点遺物観察表

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	土器	内耳土鍋か	破片	-	-	-	良	外壁付着漆黒色 内暗茶褐色	雲母、石英、 砂粒	内外ロクロナデ。B-4G。
2	常滑	小型鉢か	底部1/4	遺存高 1.5	-	9.2	良	内外赤褐色	ち密	内外ロクロナデ。近世か。C-4G。

神明前遺跡 c 地点遺物観察表

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	縄文式土器	深鉢	口縁部片	-	-	-	良	内外橙褐色	雲母多含、 白色粒、砂粒	縄文中期。阿玉台式。1T。
2	須恵器	環	口縁部片	-	-	-	良	内外淡灰色	雲母、白色粒	ロクロ使用。16T。
3	須恵器	環	底部片	遺存高 1.3	-	8.0	良	内外暗青灰色	雲母、石英、 小石粒	ロクロ使用。底部回転へう割り調整。 切り離し不明。 体部下端回転へう割り。15T。
4	須恵器	環	底部1/3	遺存高 1.5	-	8.4	良	内外灰褐色	雲母多含、 石英、長石	ロクロ使用。底部切り離し不明。 手持ちへう割り調整。 体部下端へう割り調整。15T。
5	土師器	環	底部片	-	-	-	良	内外赤褐色 (赤彩)	雲母、白色粒、 砂粒	ロクロ使用。体部下位へう割り調整。 21T。
6	須恵器	小型甕	口縁部片	-	-	-	良	内外淡灰色	白色粒、 赤色粒	ロクロ使用。口縁部内外横ナデ。 複合口縁。9T。
7	土師器	甕	胴部片	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、白色粒、 砂粒	武蔵型甕。 外斜位へう割り。内ナデ。3T。
8	土師器	甕	底部1/4	遺存高 2.8	-	10.0	良	内外茶褐色	雲母、長石、 砂粒	常盤型甕。外ミガキ状細いへう割り。 内へうナデ。指ナデ。 底部外面束ね。15T。

平沢遺跡 g 地点遺物観察表

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	弥生式土器	壺	口縁部片	-	-	-	良	外橙褐色 内赤褐色	雲母細片 ち密	外側目状撫糸文。内赤彩。 口縁上部も側目状撫糸文。D11。
2	弥生式土器	甕	頸部片	-	-	-	良	内外橙褐色	白色粒	頸部無文帯。 外ナデ。内ハケ目状ナデ。D8。
3	弥生式土器	壺	胴部片	-	-	-	良	内外淡橙褐色	白色粒、 焼成粘土片	外沈線山形文。附加条縄文。表採。
4	弥生式土器	甕	胴部片	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、白色粒	有段条胴部。段に割み目。 C8。
5	弥生式土器	甕	胴部片	-	-	-	良	外橙褐色 内茶褐色	雲母	外羽状縄文。内ナデ。表採。
6	弥生式土器	甕	胴部片	-	-	-	良	内外茶褐色	雲母、白色粒	有段条胴部。有段部に内形竹管文。 下位に附加条縄文。内ハケ目状ナデ。 D11。
7	弥生式土器	甕	胴部片	-	-	-	良	内外淡橙褐色	雲母、白色粒	附加条縄文。表採。
8	弥生式土器	壺	胴部片	-	-	-	良	外茶褐色 内橙褐色	雲母、白色粒	附加条縄文。表採。
9	弥生式土器	小型甕	胴部片	-	-	-	良	外橙褐色 内暗褐色	雲母、白色粒	附加条縄文。D8。
10	弥生式土器	甕	底部1/4	遺存高 2.1	-	7.0	良	内外橙褐色	雲母、白色粒、 砂粒	外ナデ。へうナデ。 内ナデ。D8

表1 西山遺跡 e 地点・神明前遺跡 c 地点・平沢遺跡 g 地点

北裏畑遺跡 j 地点遺物観察表

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1 土器	内耳土鍋	口縁部片	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母細粒, 砂粒	ロクロ使用。内外ナデ。36T。
2 陶器	青磁碗小	体部片	-	-	-	良	外白青色 内上部青色染付	ち密	ロクロ使用。内外器面貫入。表探。
3 瀬戸	天目茶碗小	体部片	-	-	-	良	内外黒茶色	ち密	内外鉄軸。17世紀か。24T。
4 陶器	碗小	体部片	-	-	-	良	外灰白地に青色 染付 内灰白色	ち密	ロクロ使用。外面器面貫入。 18～19世紀。51T。
5 石製品	仕上砥		遺存長 5.2	幅 2.8	厚さ 4.5	重さ 13.8g		石材不明	側面下側は欠損。上面に刃部痕あり。 25T。

麦丸宮前上 g 地点遺物観察表

器種	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径				
1 縄文式土器	深鉢	口縁部片	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母, 長石, 石英	並行沈線文。斜位刷み文。C-6G。
2 縄文式土器	深鉢	口縁部片	-	-	-	良	外淡茶褐色 内淡褐色	白色粒多含, 雲母	口縁内側に沈線。B-2G。
3 土製品	土器片種		縦長 4.3	横長 4.6	厚さ 0.9	重さ 13.2g	外淡茶褐色 内淡褐色	雲母, 白色粒	桑痕文系土器。上部に刷み目。G-5G。
4 縄文式土器	深鉢	胴部片	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母, 白色粒	横位沈線文。F-2G。
5 中近世土器	火鉢小	口縁部片	-	-	-	良	内外黒茶色	白色粒, 雲母, 砂粒	ロクロナデ。F-2G。
6 土製品	砥石		縦長 12.0	横長 11.0	厚さ 1.9	重さ 25.3g	内外淡灰色	雲母, 白色粒	焼成良。内外擦痕。G-6G。

表 2 北裏畑遺跡 j 地点・麦丸宮前上遺跡 g 地点



川崎山遺跡 y 地点トレンチ完掘全景



川崎山遺跡 y 地点セクション



川崎山遺跡 y 地点トレンチ掘削状況



川崎山遺跡 y 地点遺構確認状況



西山遺跡 e 地点トレンチ掘削状況



西山遺跡 e 地点トレンチ完掘全景



西山遺跡 e 地点セクション



西山遺跡 e 地点出土遺物

図版 2



神明前遺跡 c 地点発掘調査前



神明前遺跡 c 地点トレンチ完掘全景



神明前遺跡 c 地点トレンチ掘削状況



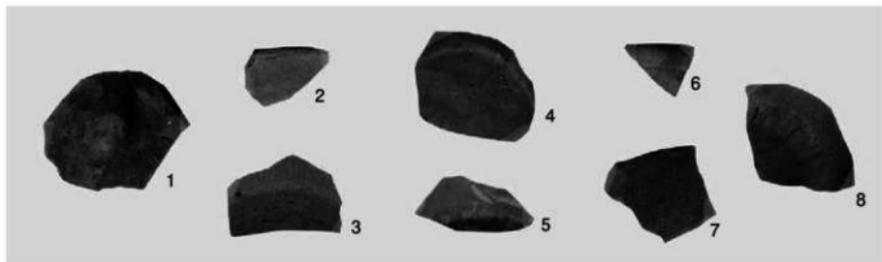
神明前遺跡 c 地点セクション



神明前遺跡 c 地点遺構確認状況



神明前遺跡 c 地点遺構確認状況



神明前遺跡 c 地点出土遺物



平沢遺跡 g 地点調査前



平沢遺跡 g 地点トレンチ掘削状況



平沢遺跡 g 地点発掘全景



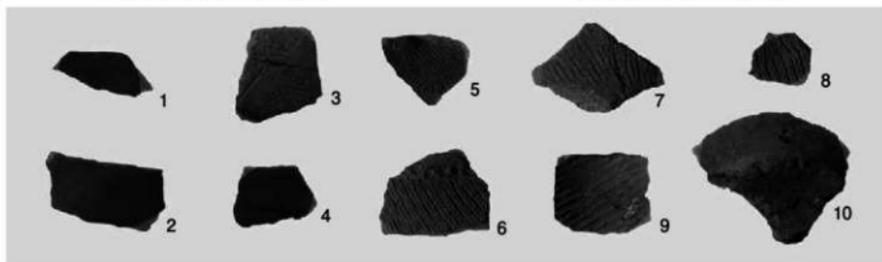
平沢遺跡 g 地点セクション



平沢遺跡 g 地点遺構確認状況



平沢遺跡 g 地点遺構確認状況



平沢遺跡 g 地点出土遺物

図版 4



北裏畑遺跡 j 地点発掘調査前



北裏畑遺跡 j 地点トレンチ掘削状況



北裏畑遺跡 j 地点トレンチ人力掘削状況



北裏畑遺跡 j 地点トレンチ人力掘削状況



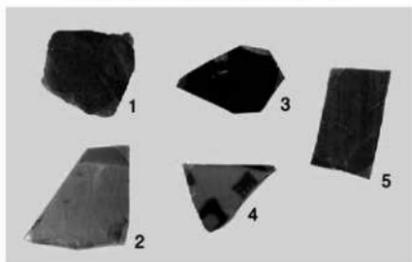
北裏畑遺跡 j 地点 01 土坑遺構確認状況



北裏畑遺跡 j 地点 01 土坑セクション



北裏畑遺跡 j 地点 01 土坑完掘状況



北裏畑遺跡 j 地点出土遺物



門原遺跡 a 地点トレンチ掘削状況



門原遺跡 a 地点トレンチ完掘状況



門原遺跡 b 地点トレンチ掘削状況



門原遺跡 b 地点トレンチ完掘状況



東向遺跡 b 地点発掘調査前



東向遺跡 b 地点トレンチ掘削状況



東向遺跡 b 地点完掘全景



東向遺跡 b 地点セクション

図版 6



麦丸宮前上遺跡 g 地点トレンチ掘削状況



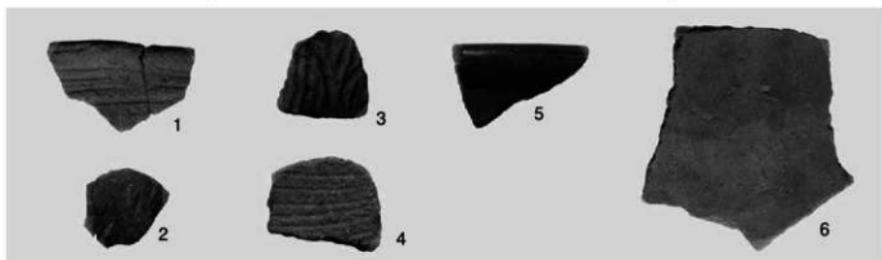
麦丸宮前上遺跡 g 地点完掘全景



麦丸宮前上遺跡 g 地点セクション



麦丸宮前上遺跡 g 地点遺構確認状況



麦丸宮前上遺跡 g 地点出土遺物



追分遺跡 b 地点トレンチ掘削状況



追分遺跡 b 地点トレンチ完掘状況

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし しないいせきはっくつちょうきほうこくしょ れいわごねんど
書名	千葉県八千代市 市内道路発掘調査報告書 令和5年度
副書名	川崎山道跡y地点、西山道跡e地点、神明前道跡c地点、平沢道跡g地点、北狭畑道跡j地点、門原道跡a地点、東向道跡b地点、門原道跡b地点、支丸宮前上道跡g地点、追分道跡b地点
編集書名	
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田 138-2 Tel 047-483-1151 (代表)・047-581-0304 (直通)
発行年月日	西暦 2023 (令和5) 年 11 月 10 日

ふりがな 所以道路	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡) 掘削 / 対象	調査原因
		市町村	道路番号					
川崎山道跡y地点	八千代市宮田町745番6	1221	241	35度 43分 18秒	140度 6分 32秒	20230415 - 20230422	上層 50㎡ / 564.43㎡	建売住宅
西山道跡e地点	八千代市村上758-3(ほか)	1221	196	35度 44分 16秒	140度 7分 17秒	20230510 - 20230525	上層 94㎡ / 1150㎡	その他建物 (店舗)
神明前道跡c地点	八千代市高田台字神明前 1053番2	1221	36	35度 46分 4秒	140度 5分 33秒	20230516 - 20230530	上層 170㎡ / 1847㎡	宅地造成
平沢道跡g地点	八千代市上高野 153-1、251-1	1221	217	35度 44分 38秒	140度 7分 39秒	20230705 - 20230714	上層 248㎡ / 2900㎡	駐車場建設
北狭畑道跡j地点	八千代市宮田町字北狭 865番3地	1221	242	35度 43分 11秒	140度 6分 28秒	20230822 - 20230902	上層 444㎡ / 4792.89㎡	宅地造成
門原道跡a地点	八千代市高津字西 674番1地	1221	236	35度 43分 1秒	140度 5分 8秒	20230920 - 20230927	上層 168㎡ / 1655.63㎡	個人住宅
東向道跡b地点	八千代市吉根字東向 2700番1、6	1221	128	35度 44分 41秒	140度 4分 28秒	20230926 - 20231003	上層 324㎡ / 3940㎡	特別養護老 人ホーム建 設
門原道跡b地点	八千代市高津字西 674番4地	1221	236	35度 42分 59秒	140度 5分 7秒	20221122 - 20221125	上層 36㎡ / 355.97㎡	その他建物 (グループ ホーム)
支丸宮前上道跡g地点	八千代市大和田新田字米本道南 630-1、632	1221	153	35度 44分 28秒	140度 6分 25秒	20230126 - 20230206	上層 300㎡ / 2998.33㎡	宅地造成
追分道跡b地点	八千代市高田台字追分 736番1	1221	46	35度 45分 19秒	140度 5分 10秒	20230210 - 20230214	上層 3㎡ / 29.22㎡	通信アンテ ナ設備撤去

道跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川崎山道跡 y 地点	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文、 弥生、古墳	縄文時代陥穴 1 基	なし	
西山道跡 e 地点	集落跡	古墳、奈良・平 安	なし	中近世土器・陶器	
神明前道跡 c 地点	包蔵地	縄文	奈良・平安時代型穴建物跡 3 棟・掘立柱建物跡 2 棟・土坑 2 基・井戸状遺構 1 基、中近世溝 1 条	奈良・平安時代土師器・須恵器	
平沢道跡 g 地点	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文、 弥生、奈良・平 安	弥生時代型穴建物跡 2 棟	弥生土器	
北表領道跡 j 地点	包蔵地	奈良・平安	縄文時代土坑 1 基	中近世土器・陶器・磁器	
門原道跡 a 地点	包蔵地	奈良・平安	なし	なし	
東向道跡 b 地点	包蔵地	縄文、奈良・平 安	なし	なし	
門原道跡 b 地点	包蔵地	奈良・平安	なし	なし	
支丸宮前上道跡 g 地点	包蔵地	縄文、奈良・平 安	奈良・平安時代土坑 3 基、近世・近代溝 2 条	縄文土器、奈良・平安時代土師器	
追分道跡 h 地点	集落跡	縄文、奈良・平 安、中世、近世	なし	なし	

要 約	1 川崎山道跡 y 地点	縄文時代陥穴 1 基が検出された。遺物は出土しなかった。
	2 西山道跡 e 地点	遺構の検出はなかった。遺物は中近世土器・陶器が出土した。
	3 神明前道跡 c 地点	奈良・平安時代型穴建物跡 3 棟・掘立柱建物跡 2 棟・土坑 2 基・井戸状遺構 1 基・溝 1 条が検出された。 奈良・平安時代土師器、須恵器が出土した。
	4 平沢道跡 g 地点	弥生時代型穴建物跡 2 棟が検出された。遺物は弥生土器が出土した。
	5 北表領道跡 j 地点	縄文時代土坑 1 基が検出された。遺物は中近世土器・陶器・磁器が出土した。
	6 門原道跡 a 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	7 東向道跡 b 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	8 門原道跡 b 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	9 支丸宮前上道跡 g 地点	奈良・平安時代土坑 3 基、近世・近代溝 2 条が検出された。遺物は縄文土器が出土した。
	10 追分道跡 h 地点	遺構・遺物の検出はなかった。